

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：総合教養教育部会

部会長名：米谷淳

作成者名：米谷淳

概要（2000字）

総合教養教育部会は「社会と人権」「神戸大学の研究最前線」「神戸大学史」「社会科学のフロンティア」「海への誘い」「瀬戸内海学入門」「国際協力の現状と課題」「阪神・淡路大震災」「環境学入門」「ESD 基礎」「企業社会論」の 11 の教養原論と、「男女共同参画とジェンダー」「ESD 論」「EU 基礎論」「ボランティアと社会貢献活動」というテーマをもつ 4 つの総合科目Ⅰと、「職業と学び」というテーマをもつ 1 つの総合科目Ⅱの、合わせて 16 科目を提供している。「社会と人権」「神戸大学史」以外はすべてオムニバスであり、「神戸大学の研究最前線」「環境学入門」は毎回違う教員により 15 回の授業が実施されている。部会長と幹事は大学教育支援研究推進室専任教員が担当しており、平成 24 年度から米谷が部会長となり、山内・川嶋（9 月まで）が幹事となった。総合教養教育部会が提供する授業科目はほとんどが 1 つまたは複数の部局が直接の実施責任を負い、各回のテーマ・講師などを決定しており、「社会と人権」を除いて非常勤講師は例外的にやむをえないごくわずかのコマ数分（8 コマ弱）しか使用していない。

それぞれの授業科目の実施状況については、各授業担当者が提出した自己点検・評価報告書に書かれているように、ほとんどすべての科目はどの項目も問題ない。

当該教育部会の執行部（部会長、幹事）は、すべて大学教育支援研究推進室専任教員であり、現部会長の米谷は前部会長の山内と連絡を密にとり、運営面ではとくに支障はなかった。

米谷は「神戸大学の研究最前線」のオーガナイザーも引き受けることになったが、各担当者への連絡や、レポートの分配・採点結果集計などについて、昨年度までは教務から科目コーディネータにレポートを一括して渡し、科目コーディネータが課題（授業担当者）ごとにレポートを仕分けして、授業担当者に送っていたが、誰がどの学生のレポートを採点したかわからず、成績評価（総計等）の作業で支障を来すことがあったので、今年度から米谷が仕分けを行い仕分けリストを作成した後に科目コーディネータに教務から送ってもらうことにした。

なお、部会構成員名簿については、すでに授業担当者でなくなった教員が含まれているなど不適切などころもあったので、次年度は再確認し、執行部以外は各科目の担当者とオーガナイザー以外は削除した。

昨年度には課題として、グローバル化への対応、および、アクティブ・ラーニングへの転換を図るための具体的な方策を検討して、総合教養教育部会が担当する科目の中でそれを展開していくこと、また、各科目の学生授業評価や成績評価を点検するとともに、適時授業参観を実施して、各科目の実態をより詳細に把握して、問題点を把握し、授業改善を図っていくことにしたが、教育改革 WG における新カリキュラムの検討を行ったほか、総合教養教育部会が提供するすべての平成 25 年度前期の学生授業評価アンケートをチェックし、さらに、平成 25 年度の成績分布の点検も実施した。

今年度は授業担当者による自己点検・評価報告書の提出がいまひとつ芳しくなく、部会長がシラバスや学生授業評価アンケート集計結果や成績分布などをチェックして科目コーディネータに代わり自己点検・評価を行った科目が半数近くにはのぼったことは残念である。次年度は科目コーディネータに要請するだけでなく、きめ細かく督促することも考えていきたい。また、大学の機能強化に向けたカリキュラム見直しの中で、今後の総合教養教育部会の提供科目の内容・方法について具体的な検討を行いたい。

項目・観点ごとの記述

基準5 教育内容及び方法

5-1 【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ、それに基づいて教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切であること。】

5-1-③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

総合教養教育部会が提供する授業科目は、内容・方法ともにバラエティに富んでおり、学生の多様なニーズに答えているとともに、テーマや講師も各領域の最先端をカバーする一方で、災害・環境・男女共同参画・人権・グローバル化など社会からの要請にこたえるテーマを扱っている。

例えば、神戸大学生に神戸大学の歴史から現在神戸大学において進められている自然科学、社会科学、人文科学、生命科学の各分野における最先端の研究を紹介する講義科目（「神戸大学史」「社会科学のフロンティア」「神戸大学の研究最前線」）を提供する一方、「海への誘い」「瀬戸内海学入門」のように瀬戸内海に面した大学の立地条件と大学が所有する実習船・観測船・研究所を生かした少人数の体験型授業を行っている。「ESD 基礎」「ESD 実習」「ボランティアと社会貢献活動」のような小集団活動を取り入れたアクティブ・ラーニングを中心とする科目に力を入れてきている。また、これまで実施してきたグローバルズムに焦点を当てた科目（「国際協力の現状と課題」「EU 基礎論」）に加えて、来年度からはグローバル人材育成事業の一環として、さらにグローバルリーダーシップ養成を目指す科目を新たに開設する予定である。

根拠資料

全学共通教育（総合教養教育）の科目一覧及び各科目のシラバス

5-2 【教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。】

5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

（観点に係る状況）

CP（カリキュラムマップ）に掲げられた教育目標（学習目標）を達成するべく、比較的大人数の講義で最先端の研究や社会で活躍している卒業生の話を聞く科目がある一方で、少人数の体験型教育も提供され、効率・効果を鑑みつつ、それぞれ魅力的な授業がなされるよう設計されている。

根拠資料

シラバス、総合教養教育の学習目標

5-2-②： 単位の実質化への配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

各授業は休講は補講で補い、15回を行うものとし、各回では学生の自習を促すためにレポートや課題を適宜課しており、成績評価も授業への積極的参加、課題・レポート、期末試験等に基づき総合的に行うようにしている。

根拠資料

シラバス及び各授業の配布資料

5-2-③： 適切なシラバスが作成され、活用されているか。

(観点に係る状況)

うりぼーネットによりシラバスの入力、学生・教員への開示がなされており、シラバス作成については教員の初任研修で説明するとともに、学生授業評価でシラバスについて学生に評価させたものを授業担当者が参照するだけでなく、適時、教務委員会などで点検している。

根拠資料

シラバス、学生授業評価分析結果概要

5-2-④： 基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。

(観点に係る状況)

総合教養教育部会が提供する科目群はとくに履修の前提となる予備知識や先行履修科目はなく、今のところ基礎学力不足の学生への配慮は必要としていない。

根拠資料

各科目担当者の授業自己点検・評価報告書

5-3 【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ、それに照らして、成績評価や単位認定、卒業認定が適切に実施され、有効なものになっていること。】

5-3-②： 成績評価基準が策定され、学生に周知されており、その基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

とくに問題なし。

根拠資料

全学共通授業科目の CP（カリキュラムポリシー）、各科目担当者の授業自己点検・評価報告書

	平均	不可	可	良	優	秀	優＋秀	合格
1 社会と人権	73.5	2.1%	4.8%	45.2%	47.9%	0.0%	47.9%	97.9%
2 神戸大学の 研究最前線	70.4	11.9%	4.8%	26.2%	48.8%	8.3%	57.1%	88.1%
3 神戸大学史	56.7	3.8%	29.2%	34.6%	31.5%	0.8%	32.3%	96.2%
4 社会科学の フロンティア	46.1	22.8%	12.0%	16.3%	34.8%	14.1%	48.9%	77.2%
5 海への誘い	76.0	13.1%	20.7%	31.5%	29.1%	5.6%	34.7%	86.9%
6 瀬戸内海学 入門	67.9	10.2%	9.0%	27.6%	40.4%	12.8%	53.2%	89.8%
7 国際協力の 現状と課題	60.3	40.8%	26.3%	15.8%	11.2%	5.9%	17.1%	59.2%
8 阪神・淡路大 震災	69.1	9.0%	3.6%	27.2%	54.3%	5.9%	60.2%	91.0%
9 環境学入門	62.0	14.3%	0.0%	42.9%	42.9%	0.0%	42.9%	85.7%
10 ESD基礎 (持続可能な 社会づくり)	77.0	26.0%	29.9%	24.9%	16.1%	3.0%	19.1%	74.0%
11 企業社会論	71.0	10.9%	9.4%	51.6%	28.1%	0.0%	28.1%	89.1%
11 総合科目I	71.1	9.8%	9.8%	28.3%	48.6%	3.5%	52.0%	90.2%
12 総合科目II	73.5	4.5%	2.3%	20.5%	63.6%	9.1%	72.7%	95.5%
総計	67.5	13.6%	14.4%	28.7%	36.4%	6.8%	43.2%	86.4%

5-3-③： 成績評価等の客観性，厳格性を担保するための措置が講じられているか。
(観点に係る状況)
とくに問題なし。

根拠資料

各科目担当者の授業自己点検・評価報告書

基準6 学習成果

6-1 【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして，学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について，学習成果が上がっていること。】

6-1-②： 学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して，
学習成果が上がっているか。

(観点に係る状況)

学生授業評価アンケートの結果はおおむね満足できるものとなっている。

根拠資料

学生授業評価アンケート結果、各授業担当者の授業自己点検・評価報告書

前期開講科目	総合評価	ポジティブ評価%
社会と人権	4.4	91%
神戸大学の研究最 前線	4.2	91%
神戸大学史	4.5	59%
瀬戸内海学入門	4.5	88%
阪神・淡路大震災	4.1	74%
ESD基礎(持続可能 な社会づくり)	4.2	87%
企業社会論	4.9	100%

基準7 施設・設備及び学生支援

7-1 【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。】

7-1-④： 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。
(観点に係る状況)

全学共通教育における自主的学習環境整備は部会単位の事項ではないので、回答できない。

根拠資料

7-2 【学生への履修指導が適切に行われていること。また、学習、課外活動、生活や就職、経済面での援助等に関する相談・助言、支援が適切に行われていること。】

7-2-①： 授業科目、専門、専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されているか。
(観点に係る状況)

全学共通教育では入学式直後の新入生ガイダンス及び各学部における教務指導等で実施しており、総合教養教育部会独自には実施していないので、回答できない。

根拠資料

7-2-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われているか。
また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて学習支援が行われているか。

(観点に係る状況)

授業担当者が授業時間の前後及びオフィスアワーにおいて受講生個々人の質問や相談に応じており、とくに問題は生じていない。

根拠資料

シラバスにおけるオフィスアワー（日時・場所・連絡先等）の欄、学生授業評価アンケート結果、各授業担当者の授業自己点検・評価報告書